

題材の目標

- (1) 木の質感や特性、形や色彩などが感情にもたらす効果やぬくもりなどを全体のイメージで捉えることを理解することができる。木の加工方法を身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考えながら見直しをもって制作することができる。
- (2) 木の特性や美しさを基に、使う人の気持ちや場面などから主題を生み出し、使いやすさと美しさなどの調和を考え、表現する構想を練ることができる。木のよさや使いやすさとの調和のとれた美しさなどを感じとり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく木のよさや使いやすさなどを考えて構想を練ったり、意図に応じて工夫し見直しをもって表現したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。木のよさや使いやすさと、調和のとれた美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

標準的な展開例

【準備等】 木材、万力、作業板、木工やすり、紙やすり、小刀、彫刻刀、ワークシート、アイデアスケッチ、タブレット端末、筆記用具

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 木製製品を鑑賞する。</p> <p>★木製製品ならではのよさは、どこにあるのだろうか。</p> <p>○木の製品のよさについて考え、ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「7 オンスカップホルダー」栄大貴の作品から、この器のよさについて考える。 <p>○木製製品ならではのよさについて話し合う。</p> <p>2～5 主題を決め、構想を練り、制作する。</p> <p>★木製ならではのよさを生かした作品制作をしよう。</p> <p>○実際に木を触りながら、木の質感や特性を生かして、使う場面を考える。</p> <p>○使う場面や使う人、木の特性を生かした主題を考える。</p> <p>○どのような製品にするのかを決め、アイデアスケッチの中で形や大きさ、表面加工を決める。</p> <p>○教科書の資料を読み、制作の手順を考えてアイデアスケッチに記入する。</p> <p>○削りやすさやかけなど表現の工夫と効果を考えながらイメージした作品に近づける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の2次元コードを読み取らせ、なぜ木で作るのか、木の特徴と用途に必然性があることに気付かせる。 <p>【評】木のよさや使いやすさ、美しさなどを感じとり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】木のよさや使いやすさと調和のとれた美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えた見方や感じ方を広げる鑑賞の活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰がどんな時に使う物なのかを考え、木の木目や色味、形の大きさや重さを考えさせる。 <p>【評】木の特性を基に、使う場面や使う人の気持ちなどから主題を生み出し、使いやすさと美しさなどを考えて構想を練る活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 p 66 の2次元コードで使用する材料や加工する道具について、その特徴や使用方法を確認させる。 <p>【評】木の加工方法を身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序などを考える活動を通して「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】木のよさや使いやすさなどを考えて構想を練ったり、意図に応じた工夫をしたりする、見直しをもった表現の学習活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の表現意図に併せて表現材料を選ばせ、作業を進めさせる。 <p>【評】木の質感や特性、形や色彩などが感情にもたらす効果やぬくもりなどを全体のイメージで捉えることを考える活動を通して「知識・技能」を評価する。</p>

6 鑑賞会を行う。

★木製製品ならではの美しさや使いやすさを感じ取り、伝え合おう。

- 級友の作品を鑑賞し、級友が対象から感じ取った木の効果やぬくもりなどの特徴やよさを表現するためにどのような表現の工夫をしたかを話し合い、見方や感じ方を広げる。

・級友が木材から感じ取った木の効果やぬくもりなどの特徴やよさは何か、それらを表現するためにどのような工夫をしたかを、感想などを交えながら鑑賞させる。

【評】木のよさや使いやすさ、美しさなどを感じとり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

木製製品を購入するときに私たちは見た目の美しさやデザイン性だけでなく、製品を手にとって無意識のうちに機能性を確認する。このように工芸品は美しさやデザイン性だけでなく機能性も求められる。本題材では、どのような場所で誰が使うものなのかをよく考え、使う人が使いやすいデザインを考えさせたい。また、本題材を通じて木の製品が身近にあり、生活の中で多様な役割を果たしていることも学習させ、生活を美しく豊かにする美術の働きを実感させることをねらいとする。